

# 家畜にされた女騎士の末路

戦いに負けた者の末路は悲惨を極める。男であれば人としての権利を剥奪されて、死ぬまで過酷な労働を強いられるか、あるいは戦奴や闘奴として死ぬまで望まぬ戦いを強いられ続けるか、もしくはただの暇潰しとしてじつくりと苦しめられながら殺される――そんなろくでもない未来しか待ち受けていない。

女も悲惨だ。古来より、性の捌け口としての需要がある女は、好きでもない男たちに凌辱の限りを尽くされて、穴という穴を幾度となく無理やり犯されて、支配を円滑に進めるための一環として敵国人の子を孕ませられる。それだけではなく、性を売り物にした残酷なショーの供物にされて、その裸体を公衆の面前で晒すことを強要されたり、あるいは豚や馬などの異種生物と交尾させられたりするのだ。

その末路を鑑みれば、最後まで必死に戦った者に与えられる死刑とは、一種の慈悲であると言えなくもない。だが、抵抗も、苛烈を極めれば憎悪を招く。それも極大の。

その美貌のみならず、剣の腕でも名を馳せたレダ王国の女騎士イゾルデ。ヴェルズ帝国の侵攻により、レダの王城が包囲され、王国の運命が風前の灯火となるなか、彼女は最後まで諦めずに仲間たちを鼓舞してまわり、戦いの先頭に立って敵将ジャバザ率いる帝国の猛攻を三度に渡って防いだ。

しかしその奮戦も虚しく王城の陥落が決定的になると、イゾルデ



ルデ。しかし、多勢に無勢であるがゆえ、性暴力の流れを止めることは不可能だった。

やがて、帝国の兵士たちが、彼女の淫ら穴の開帳作業に取り掛かった。四方から、荒々しい手が無数に伸びてきて、その柔肉を掴んだのだ。

ぐにいいいいいいいい……ッ！

「ひいやああああああああああああああああああああああああああああああああああああ……ッ！」

柔らかなマン肉が左右に拡げられ、キュツと閉まった肛門が開け拡げられた。薄桃色の綺麗な色をした膣肉と、腸汁が滴る腸肉が冷たい空気に晒されて、イゾルデの口から惑乱した声を紡ぎださせた。

「ひいいいいいいいいいいいい……ッ、な、なにをッ、なにを……ッ！ な、なにをおおおおおお……ッ！」

困惑と焦りの色をその美しい顔に浮かべながら下半身の方をみた。その時、帝国の兵士たちと視線がぶつかった。

「ぐふ、ぐふぐふぐふ……ッ」

「ふひひひひひ……ッ」

どの兵士たちも、欲望に視線をぎらつかせている。そして、事がここにいたった場合、やることはひとつだ。

帝国の兵士たちが怒張したペニスを取り出す。どのペニスも腐臭めいた汚臭を漂わせながらギンギンに勃起しており、いまにすぐにも射精できそうだ。

林立するペニスの群れを見て、イゾルデの顔が青くなった。

「ま、まさか……まさか、そ、それを……それらを、わたしの













